

公園愛護会による街区公園の維持管理の実態について*

A maintenance of the block park through the volunteer groups

児玉 陽子**・嶋田 喜昭***・舟渡 悦夫***

By Yoko KODAMA, Yoshiaki SHIMADA and Etsuo FUNAWATASHI

1. はじめに

市街化の著しい都市部においては、公園が市民にとって貴重な緑の場となっている。しかし、数ある公園の中には、利用者の少ない公園や、掃除が行き届いていない公園を多々みかける。本来、公園清掃などの維持管理は、公園設置者である行政担当部局の仕事であるが、筆者らが居住する名古屋市内の公園では、公園周辺の住民により公園愛護会⁽¹⁾（以下、愛護会）が結成され、住民のボランティアにより清掃活動を行っている公園も多い。しかし、全ての都市公園に愛護会があるわけではなく、行政としても、過度に住民のボランティアを期待することはできない。

2. 過去の研究から

筆者らは1997年11～12月にかけて、名古屋市内6地区において、街区公園（平均面積0.28ha）の周辺半径約250m以内の地域住民に対し意識調査を実施し、有効回答数520の集計結果から以下の知見を得た。^{1), 2)}

図-1は、街区公園の維持管理の重要な部分を占める「清掃活動」と「公園の必要度」の関係を6地区合計の値からみたものである。街区公園における清掃体験率は全体の約1/3程度であり高くないが、街区公園の清掃活動を、最近も行ったことのある「経験あり」と回答した住民の8割強は公園を「必要」な場と考えているのに対し、公園の清掃活動の「経験なし」の住民は公園の必要度意識が低く、「不必要」「どちらでもない」場であると考えている住民が6割存在する。

今後、住民による街区公園の清掃などのボラン

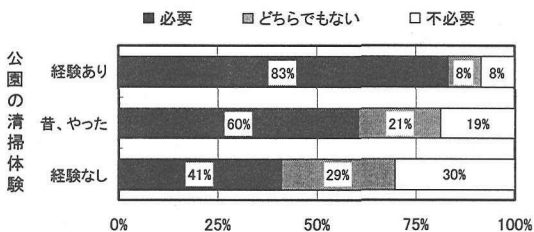


図-1 清掃体験別にみた公園に対する必要度

ティア活動を支えるためには、行政との共働関係が不可欠であり、両者の役割や要望などについて知る必要があるといえよう。

そこで、本研究は、地域住民と関わりが深い「街区公園」の維持管理の現状について、公園緑地担当部局（以下、行政）と愛護会にアンケートを実施し、公園の維持管理について両者のよりよい共働関係を探ることを研究目的とするものである。

3. アンケートの概要

1) アンケートの実施

1998年12月から1999年1月にかけて、下記の全国主要都市の行政と、名古屋市内の愛護会会長に対し、「街区公園の維持管理に関するアンケート」を郵送調査にて実施した。

- ① 行政調査：日本公園緑地協会正会員である政令指定都市12市、東海3県の61市町、東京都21特別区、その他県庁所在地34市、計128市町の行政の担当者⁽²⁾に調査した。有効回答数は、116市（有効回答率91%）であった。
- ② 愛護会調査：名古屋市内の街区公園のうち公園面積が1ha未満で、愛護会のある公園777を母集団として、層別抽出法により388団体（トイレ有が162団体、無が226団体）を選出した。有効回答数は199団体（有効回答率51%）（トイレ

* keywords: 公園・緑地、市民参加、意識調査分析

** 学生員 大同工業大学大学院工学研究科建設工学専攻

*** 正会員 工博 大同工業大学建設工学科

名古屋市内南区白水町40 Tel (052)612-5571 FAX(052)612-5953

有が 93 団体（有効回答率 88%）、無が 106 団体（同 47%）であった。

2) アンケートの質問内容

アンケート内容は、「都市の公園計画」「愛護会活動」「行政と愛護会の関係」に大別されるが、本研究では表-1 に示す質問内容に限って分析を行った。

4. 愛護会の役割について

1) 愛護会の有無

行政に対して『愛護会が存在するか』を質問したところ、図-2 に示すように都市の人口規模により相違がみられ、人口の少ない都市ほど愛護会の存在率が低くなっている。このことは、都市公園数が都市人口に比例した数しかないことが影響していると思われる。例えば、5 万人未満の中小都市では都市公園が 30 箇所未満しかなく、愛護会がなくとも行政により十分な維持管理ができていると推測できる。

2) 愛護会がない場合の問題点

次に、『愛護会に類似する団体が存在しないことにより（あるいは、しないと仮定したら）、街区公園の維持管理に何らかの問題があるか』と質問したところ、図-3 に示すように、愛護会の有無に関わらず約 80%の行政が「問題がある」と回答している。また、問題の内容に関しては、「経費が高い」や「清掃頻度の低下」といった管理面に関する意見も多いが、「地域との密着性低下」に対する危機感を示す割合が 35%と最も高くなっている。

3) 愛護会の活動内容

行政側に『愛護会に要望する主な活動内容』を質問したところ、「清掃」を要望する行政は 66%あり、「点検」には 39%、「植樹の手入れ」には 21%、「防犯」には 14%、「その他」には 26%の要望が寄せられている。このことから、行政が愛護会に望む主な活動は「清掃」であることがわかる。

一方、愛護会の『街区公園における主な活動内容とその重点の置き方』をみると、図-4 より、活動内容として「清掃」に 89%、「公園設備の点検」、「公園内の防犯」にそれぞれ 75%、「植樹の手入れ」に 73%の愛護会が取り組んでいる。また、各活動に対

表-1 アンケートの主な質問内容

No.	行政	愛護会	本研究で使用する質問内容	参照図表
1	○		愛護会の有無	2
2	○		愛護会が存在しないことによる問題の有無	3
3	○		愛護会が存在しないことによる問題の内容	3
4	○	○	愛護会の活動内容	4
5		○	愛護会活動の重点の置き方	4
6	○	○	愛護会の公園清掃の内容	5
7	○		愛護会に対する援助の有無と内容	—
8		○	愛護会に対する年間援助額	6-(a)
9	○		愛護会に対する年間援助額(一律額)	6-(b)
10	○		街区公園清掃の業者委託費用	7
11		○	援助金の使い道	—
12		○	愛護会活動がその会員に与える効果	—
13		○	公園施設・設備の改善要望の有無	—
14	○	○	公園建設計画への住民参加方法(予定)	8

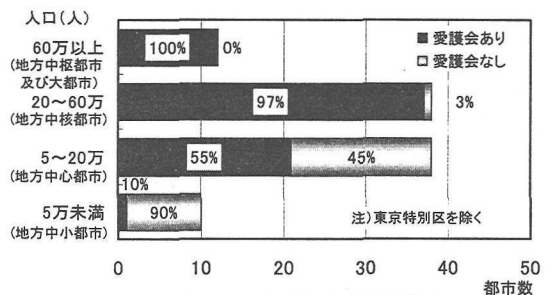


図-2 公園愛護団体の有無と

人口規模別にみた愛護会の有無

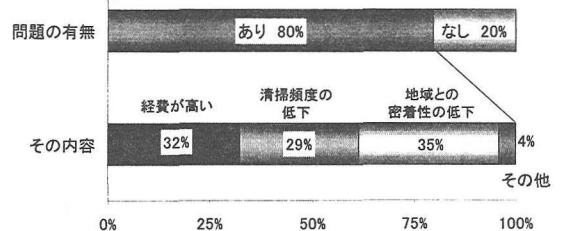


図-3 公園愛護会が存在しないことによる問題の有無とその内容

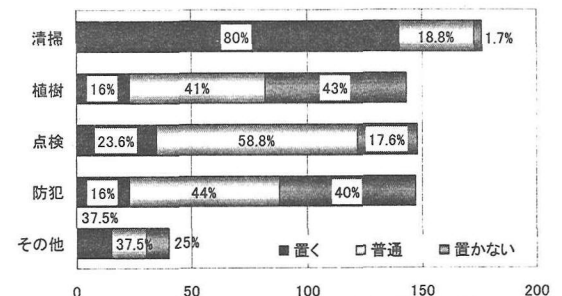


図-4 愛護会活動の主な内容と重点の置き方

する重点の置き方をみると、「清掃」に最も重点が置かれており、行政の要望とほぼ一致していることを確認できた。

4) 清掃活動の内容

『愛護会が、街区公園でおこなう清掃活動の内容』について質問したところ、図-5より、行政、愛護会ともに公園内の「ゴミ拾い」「落ち葉掃き」「草取り」といった広場での活動を考えていることがわかる。また、「トイレ掃除」を現在行っている愛護会は3%とごく少数にも関わらず、行政の約3割は愛護会にそれを期待しており、両者の意識にずれが生じている。

5. 愛護会に対する行政の援助

1) 行政からの援助の有無とその内容

『愛護会に何らかの援助を行っているか』という質問に対し、愛護会がある都市(79市)の99%が「援助している」と回答している。また、援助の内容は、「金銭的」が69%、「物的」が25%、「人的」が4%、「その他」が2%という結果であった。なお、金銭的援助に加え、人的あるいは物的援助を行っている行政は26%であった。

2) 行政からの年間援助額

『愛護会に対する金銭援助額』について行政に質問したところ、24市が「一律である」と回答した。そこで、図-6よりその金額をみると、「1万円台」が29%、「3万円台」が21%となっており、最大は6万円と、年間援助額はさほど高額でないことが確認された(平均:3.0万円、標準偏差:1.7万円)。また、「一律」と回答しなかった都市では、公園面積や活動人数によって援助金額を決定している。

一方、回答のあった名古屋市の愛護会に対する『行政からの年間金銭援助額』は、図-6より、3万円台(平均:3.5万円)が多く、名古屋市の基本金額3.6万円を受け取っている愛護会が多いことがわかる。なお、最高援助額は10.2万円であった。

3) 公園清掃の業者委託費用

図-7に示すように、『愛護会のおこなう公園清掃と同等の作業を、清掃業者に委託した場合の年間費用』(公園面積0.25ha、清掃面積0.1ha、トイレありのモデル公園を提示)について質問したところ、各行政によって費用が大きく変動している。100万円以上という行政が全体の21%存在するが、100万

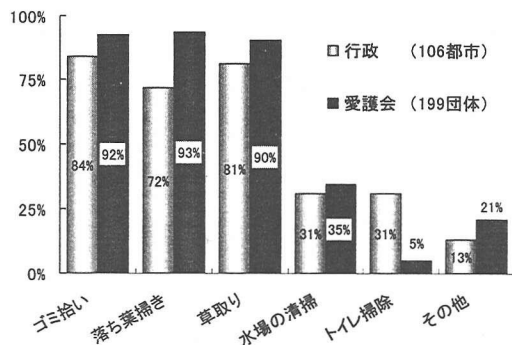


図-5 清掃活動の内容 (M.A.)

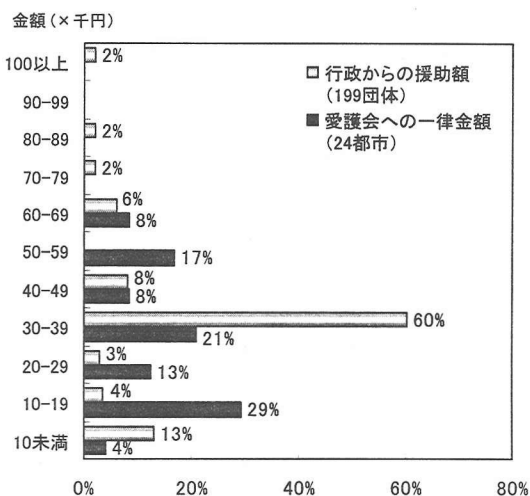


図-6 活動に対する行政からの援助金額

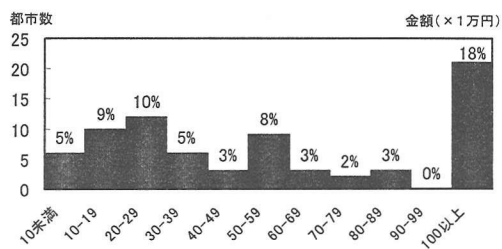


図-7 公園清掃の年間業者委託費用

円以上を提示した都市を除いた54都市でみると、平均が34万円、標準偏差は22万円となり、今回の調査からは愛護会援助金額のほぼ10倍の費用がかかっていることがわかった。

4) 援助金の使いみち

『行政からの援助金の使いみち』について複数回

答で質問した結果、全体（199 団体）の 72%が「清掃用具代」に援助金を使っており、「活動後の懇親代（飲料代等）」に 63%、「公園内設備の修理代」に 48%、「通信費」に 7%、「その他」に 27%の愛護会が援助金を使用している。

5) 愛護活動が会員に与える効果

『愛護活動がその会員に与える効果』がどれくらいあるのかを複数回答の結果からみると、「地域の連帯効果」は 63%、「地域の親睦」は 60%、「社会奉仕」は 59%、「健康・運動のため」は 42%、「自然に触れる」は 32%の愛護会が効果ありとしており、愛護会活動がボランティアとしてだけでなく地域活動の一環と考えられていることがわかる。

6. 住民の公園に対する関心

1) 公園の改善

愛護会に『現在の公園内の施設・設備について、改善すべきだと思うか』をたずねたところ、「改善すべき」が 58%、「改善の必要はない」が 27%であった。また、改善内容として「井戸の新設」に対して 99%と高い回答が得られたことから、公園を避難場所と考えていることがうかがえる。また、「ゴミ箱」「砂場」「植樹」に対する意見がそれぞれ 2 割あり、清掃活動での関連事項が高くなっている。

2) 公園建設計画への住民参加の方法

各行政に『都市公園建設計画への市民意見の取り入れ予定とその方法』に関して『新規都市公園計画』と『既存公園再整備計画』のそれぞれの場合について質問したところ、図-9 に示すように新規・再整備いずれも「計画についての説明会」「住民との話し合い」という方法が多く取り入れられていることがわかる。一方、市民意見を取り入れる「予定がない」という意見も 2 割近くある。

同図から、愛護会へ『都市公園建設計画へどのような住民意見の取り入れ方法を望むか』という質問の結果をみると、「計画についての説明会」「住民との話し合い」という方法の他に、「現地での説明会」「アンケート」を望む声が計 35%あることから、行政からの一方的な説明だけでなく、より具体的な意見の反映を要望していることがわかる。なお、

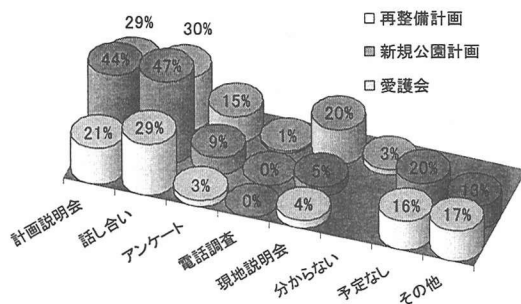


図-8 公園づくりへの市民意見の取り入れ方法

『愛護会で公園づくり計画に参加したことがあるか』という質問に対して、参加「経験あり」が 25%、「経験なし」が 70%という結果であった。

7. まとめ

以下に、本研究で得られた結果を記す。

- ① 都市の人口規模が大きくなるに従って、愛護会の存在率は高くなることがわかった。
- ② 愛護会の主な活動内容は「清掃」であり、広場等の清掃活動を主に行っているが、行政側はトイレなどの清掃も望んでいる。
- ③ 愛護会に対する援助は、金銭援助が中心であり、1 愛護会に対する援助額は 3～6 万円が多い。しかし、同清掃活動を清掃業者に委託する場合、その金額は一桁高くなる。
- ④ 援助金の主な使いみちは、活動に使う清掃用具代の他、地域の親睦を深める目的で活動後の飲料代などに使われている。
- ⑤ 公園づくりへの説明に関して、愛護会は一方的な説明だけでなく意見の取り入れを望んでいる。

【補注】

- 1) 公園愛護会とは、「公共施設愛護思想の普及」「自動に対する正しい遊び方の指導」「樹木の愛護と公園の除草、清掃」「公園施設等の点検連絡」などを行う名古屋市内のボランティア団体。
- 2) 公園緑地担当部局の担当者は、公園行政に 3 年以上勤務している部局員、あるいは課長、係長などの役職である部局員を希望したが、記入者選出に関しては各部局の判断に委ねた。

【引用・参考文献】

- 1) 児玉陽子・舟渡悦夫、距離とゾーンからみた街区公園の利用特性、第 53 回土木学会年次学術講演会講演概要集第 4 部、pp. 226-227, 1998
- 2) 嶋田喜昭・舟渡悦夫、清掃活動の要因分析からみた街区公園の創発性に関する研究、第 12 回環境情報科学論文集、pp. 161-166, 1998
- 3) 児玉陽子・丸山保昭・嶋田喜昭・舟渡悦夫、住民と行政が一体となった街区公園の維持管理のあり方について、土木学会中部支部研究発表会講演概要集、平成 10 年度、pp. 433-434, 1999